

事例10

足利市富田公民館・足利市立富田小学校・富田中学校

富田三世代ふれあい教室



連携の経緯

足利市は、「子どもたちと高齢者の交流の中で、子どもたちは高齢者の持つ知識や技術を学ぶと共に地域の伝統や文化について考え、高齢者にはその交流の中で地域の子どもたちを育てるという意識を醸成する」ことを目標に三世代事業を計画していた。その頃、公民館は、富田地区社会福祉協議会を通じて、富田小学校が昔の富田地区の話ができる方を探していると伝え聞き、老人クラブのメンバーを講師として学校に紹介した。

これらのこときがきっかけとなって、公民館と学校の連携による交流事業が始まり、平成10年度には、富田小学校との「お正月集会」、富田小中学校PTAとの「教育講演会」などの共催事業が開始された。

連携事業の概要

富田地区では、公民館が窓口となり、毎年年度末に地元の小中学校長、老人クラブ会長、地区社会福祉協議会長、公民館長などで構成する「学社連携会議」を開催している。そこで企画された事業が「富田三世代ふれあい教室」である。プログラムは次のとおりである。

○富田小学校創立記念集会～昔の遊びを楽しもう～（富田地区社会福祉協議会共催）

- ・輪投げ、たこあげ、お手玉、折り紙、竹馬、竹とんぼ など

○富田中学校3年生と老人クラブとの交流会（富田地区社会福祉協議会共催）

- ・将棋、輪投げ、そば打ち

○富田小学校3、4年生お話集会

- ・昔の暮らし、昔の学校、昔の遊び、迫間湿地の様子、大小山のいわれ

○富田地区三世代ふれあい「そば打ち教室」（富田地区社会福祉協議会共催）

- ・地域のそば打ち名人の指導による、そば打ちをとおした世代を超えた交流活動

○富田公民館、富田小中学校PTA共催「教育講演会」

- ・地域での子育て、家庭教育についての理解を深める

《その他の連携事業》

夏祭レクリエーション大会

地区体育祭、地区文化祭

老人クラブスポーツ大会

連携の形態

本事業は、地区内の小中学校の特別活動や総合的な学習の時間など教育課程に位置づけられたものと、それ以外に休日や夜間に開催される「そば打ち教室」や「教育講演会」があり、子どもたちを地域ぐるみで育てるための事業が推進されている。公民館は学校と地域をつなぐコーディネーターとなり、日程調整、広報、参加者の募集、受付、講師依頼や謝礼などの企画と運営を担っている。

足利市富田公民館

【施設データ】

所在地	足利市駒場町748番地2
電話	0284-91-0002
設置年	昭和39年
対象地域人口	4,900人
延床面積	531.90m ²
設置状況	単独
URL	http://www.city.ashikaga.tochigi.jp/

【施設の管理運営等】

職員の状況	・館長（専任1）
	・主査（専任1）
協議会等	
予算額	維持管理費： 538,290円 事業費： 602,000円

連携の留意点

- 地元の関係者が「学社連携会議」で一堂に会し、事業目的を共有し、情報を交換し合うことによって、教育効果を高めている。
- 会議では教育評論に陥ることなく、今の子どもたちに必要なものは何かを具体的に検討し、毎年プログラムを見直している。
- 会議では関係者が行っている年間事業の情報を交換し、互いの行事が重複しないよう配慮する。
- 老人クラブをはじめとする市民の方々には、三世代交流事業の教育的意味を丁寧に説明する時間を設定している。



成 索

- 子どもたちは、地元の人々と、昔の文化と現代の文化の違いや考え方の違いについて語り合ったり、楽しさを共有したりするなど、学校の中だけではできない学習活動が可能となった。
- 高齢者は講師として子どもたちと接することで、いきがいを見つけ、活動意欲が高まった。
- 連携事業を通じて、公民館職員が児童生徒と顔見知りになり、子どもたちとコミュニケーションする機会が増えたためか、公民館の興國文庫の利用や他の学級講座などへの参加者が増加した。
- 中学生がボランティアとして公民館などの行事に参加協力したり、学校の先生方が事務局として地域行事の運営に携わったりするなど、学校が地域に協力するようになった。



課 題

- 学校と公民館や老人クラブなどの地元の関係団体の関係をより深めることによって、多様な世代の人々が、自分たちの地域、まちづくりについて考えたり話し合ったりしながら、具体的なまちづくりが実践できるようにする。